



Letter

Southeast Asia Regional Branch, Faculty of International Studies & Graduate school of International studies Utsunomiya University Alumni Association

Vol. 7
April, 2019

CONTENTS

1. ご挨拶
2. 懇談会ご報告
3. 連載コラム

01 ご挨拶

新年度を迎え、皆さまいかがお過ごしでしょうか。お陰様で、ニュースレターも7回目の発行を迎えました。現在、東南アジア支部メンバーは、域内在住者7名(インドネシア3名、タイ2名、ラオス1名、シンガポール1名)、域外在住者6名(ファンクラブ)の計13名で成り立っております。域内にはまだ多くの同窓生が在住されていると思いますが、なかなかメンバー増員には結びつかないのが現状です。一方インドネシア在住メンバーが3名となりましたので、インドネシアで同窓生の輪がさらに広がることを期待しています。また、今年よりニュースレターの発行回数を、上半期(4月)、下半期(9月)の年2回に変更することにいたしました。年2回となりますが、各号にて充実した内容をみなさんにお届けできればいいと思います。では、今年度もよろしくお願いたします。(大畑美優紀/国社95,院・国社00/在タイ12年目)

02 懇談会

国際学部同窓会会長の吉葉恭行さんが、タイ・ラオスを訪問され、それぞれの地で同窓生との懇談会を開催。交流を深める良い機会となりました。

▼左から橋本さん(工)池内さん(農)、大畑(国)、吉葉さん、押野さん(国3年/カセサート大留学中)



「わたしはTOSHIBAじゃありません、YOSHIBAです！」

◀国際学部2期生田邊@ラオスです。吉葉会長は2月末に再度東南アジアにいらっしゃいました。写真は3月1日、私の勤務するラオス国立大学の日本語の授業に参加していただいたときのものです。漢字の授業だったのですが、ディクテーションのための読み上げを吉葉さんにお願いしました。いつもとは違う日本人の声に、生徒たちも新鮮な気持ちで書き取りを行っていました。もちろん、前夜には市内でたっぷり飲みましたよ！

(田邊知成/国文95,院・国文00/在ラオス2年目)

◀2月12日、タイのバンコクにて懇談会を開催。同窓生は2人だけの参加でしたが、他学部の同窓生の他、現役学生の参加もあり、それぞれの立場で宇都宮大学の思い出話に花が咲きました。(大畑)

03 連載 コラム

第7回
◆タイの昨今◆
～タイのバレンタインデーな1日～

2月14日のバレンタインデー。イベント好きのタイ人、この日は赤やピンクのファッションで出勤する女子が多く、オフィスでは女子たちが「ハッピーバレンタイン！」と、ハートのシールを服にベタッと貼ってくれとても賑やか。こんな様子を見ると、一見女子が頑張る日本のバレンタインのようですが、これはあくまでイベントレベルのお遊び。本命レベルは、世界的基準?にのっとって、男性が女性にバラの花を送る日、それがタイのバレンタインです。職場の同僚で今年30突入のEちゃんは、まさに恋活真っ最中。

朝から友達のフェイスブックをチェックし「友達に99本の花束をもらった～」とか「バラを前にホテルで食事、羨ましい！」とフェイスブックの写真を見せながら大騒ぎ。当の本人は遠距離の友達に恋人未満の男性から何のアクションもないとイライラ。「バレンタインデーで何もできないなら、他の記念日なんて全く期待できない!今日何のアクションもなければもう連絡は取らない!」と言いたい放題。そんなEちゃん、次の日は笑顔で出社。バラのボックスフラワーが夜

届いたようで。でも「本当はバラの花束が欲しかった～」と本音がポロリ。タイ女性全てが彼女のようにでないにせよ、昨今のSNSの発達も相まって男性への期待値は年々高まっているのが現実。タイ男性陣の皆さま、誠ににお疲れ様です!さて将来そんなお疲れな立場になるであろう息子。学校から帰ってくると制服にハートのシールがびっしり!つ…ついに息子も小2にしてバレンタインイベントに参加する年になったかと母感動!「みんなに貼ってもらったんだね?」と聞くと「ううん、自分で買って自分で貼った」と。はて?どうやら学校でハートのシールを貼っている人達がいからマネしてみたとか(笑)「先生に貼ってあげたらよかったのに」と言うと、ハートのシールがなくなったからドラえもんシールでもいいか、と答える息子のバレンタインイベント参入はまだまだ先の様子です。(大畑)



アジア取材雑記

・ 第3回 ・

沈みゆくメガロポリス

皆様こんにちは。インドネシアを拠点にアジア取材をしております、フリーのTVディレクター・谷澤です。今回は、私が住む首都・ジャカルタで静かに進む危機についてお伝えします。

ご覧の写真、どうい状況かおわかりになるでしょうか。イスラム教の礼拝所・モスクに海水が流入し、うち捨てられてまっています。首都の北端に位置し、ジャワ海に面するこのエリア。近年、満潮時に集落に流入してくる海水に悩まされているのです。



原因は何なのか。地球温暖化によるという海面上昇に加え、こうした被害を拡大させているとされるのが、この街で急速に進行する地盤沈下です。首都圏で3000万人が暮らすといわれる東南アジア随一のメガロポリス・ジャカルタですが、上水道普及率は6割程度に留まり、工業用水・生活用水に大量の井戸水をくみ上げています。この結果、ひどい場所では10年程前に比べ、地盤が2メートルも沈下。各国の研究機関が“世界最悪のスピードで沈んでいる都市”での洪水が一層頻発するとして、早急な対策を呼びかけています。

日本のJICA(国際協力機構)が、かつて同様の問題に直面した東京都の専門家を起用して対策を練る、という取材でしたが、代替水源の準備には多額の費用と時間が必要で、対策は容易ではありません。インドネシア政府担当者の困った顔が、問題の複雑さを何よりも物語っていました。“インスタ映え”と言って喜んでいる場合ではない!?急速な発展を遂げるアジアの大都市の現実です。
(谷澤社一郎/国社02/在インドネシア2年目)

今旬のイチマイ



第三回

ともに感じる東南アジア

週末の朝

ジャカルタの公園前で

知念(高田)知佳
国社00/在インドネシア2年目



域内在住のみなさんへ

ニュースレター編集係(大畑)
miyukiohata@gmail.com

◎東南アジア域内在住同窓生・元留学生在住情報・ファンクラブの皆様へ名簿登録のお願い

以下のURLかQRコードからご自身の情報をご登録ください。

<https://creativesurvey.com/ng/reply/5dee973a4d5e822f9910e38cf2e2c7/>

◎編集係まで情報をお寄せください

■同窓生・元留學生関連懇談会 ■同窓生・在校生に役立つ各国イベント情報等々

